

3月定例会
主な内容
63年度一般会計予算22億4,800万円を可決
19歳選挙権
一般質問
経済常任委員会が村内企業を視察

◆住みよい村づくりをめざして予算編成P2
◆村長施政方針3月定例会P4
◆一般質問P7
◆一般質問P13
◆一般質問P14

◆将来の夢多き村づくりへとつながる基礎作りをめざして
予算編成P2
◆村長施政方針 3月定例会P4
◆10年度予算 一般会計、特別会計、基金P9
◆ぎわいのまちP18

No. 150
2025.8.1
発行



21世紀の主役たち
南箕輪村議会
No. 58
平成14年12月12日発行
発行責任者 議長 松村 憲
〒939-43 南箕輪村議会
TEL 0265-72-2104 FAX 0265-72-2104



南箕輪村議会
No. 90
平成14年12月12日発行
発行責任者 議長 松村 憲
〒939-43 南箕輪村議会
TEL 0265-72-2104 FAX 0265-72-2104



南箕輪村議会
3月定例会
議会だより
2018. 5. 1 発行

みなみみのわ
議会だより
No. 141
2023. 6. 1 発行

一般質問動画 配信中

QRコードから各議員の一般質問動画が観られます。

インターネット村ホームページ→村議会→本会議録画中継→定例会

新たな議会構成 P2・3
6月定例会 P4・5
議会活動（調査特別委員会報告など） P6～8
一般質問 P9～15
150号記念特別企画 P16・17
モニターの声 P18

主な内容
●北原区との懇談会 P2
●区長会との懇談会・議会定数・女性議員増進 P3
●平成30年度予算可決(3月定例会) P4
●一般質問 P6～P12
●一般質問のそのほか P13
●教育に力を入れる南箕輪美田町 P14

新たな議会構成 P2・3
6月定例会 P4・5
議会活動（調査特別委員会報告など） P6～8
一般質問 P9～15
150号記念特別企画 P16・17
モニターの声 P18

新しい議会構成が実現！
（村長の選挙区） P2
（村長の選挙区） P3
（村長の選挙区） P4
（村長の選挙区） P5
（村長の選挙区） P6
（村長の選挙区） P7
（村長の選挙区） P8
（村長の選挙区） P9
（村長の選挙区） P10
（村長の選挙区） P11
（村長の選挙区） P12
（村長の選挙区） P13
（村長の選挙区） P14
（村長の選挙区） P15
（村長の選挙区） P16
（村長の選挙区） P17
（村長の選挙区） P18

村議会初の女性正副議長誕生!!

令和7年5月14日におこなわれた第3回臨時会において、新しい議長、副議長が決まりました。議会構成も新たに、これからも村民の声を聴き、開かれた議会となるよう、議員一同尽力してまいります。

議長就任あいさつ

村民のみなさまにおかれましては、常日頃より村議会の活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、5月14日に開かれた第3回臨時会において、議員各位のご推挙により議長に就任いたしました。議決機関である議会の長の責任は極めて重大であり、身の引き締まる思いです。

議会運営においては、村民のみなさまの期待と信頼にお応えできるよう、健全な緊張感を持って行政へのチェック機能を果たしてまいります。また、より身近で開かれた議会を目指すとともに、村政の充実と発展、村民福祉の向上に向けて、誠心誠意努めてまいります。

今後とも村議会に対し、変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げ、議長就任のごあいさつとさせていただきます。



新議長 笹沼 美保

- ・上伊那広域連合議会議員
- ・伊那中央行政組合議会議員
- ・長野県上伊那広域水道用水企業団議会議員

退任あいさつ

5月に開催された村議会臨時会におきまして、議長を退任いたしました。

議長を務めた2年間、議会活性化を図り、村民の皆さまの期待と信頼に応えるべく、活気に満ちた議会運営に取り組んできました。また、南箕輪村は人口増・県下一若い村として脚光を浴び、全国さまざまな自治体から視察が数多くある中で、地方自治体が抱える課題も見えてきました。今後も住みよい村となるよう尽力する所存です。

議長在任中は大変お世話になりました。感謝申し上げ退任のあいさつといたします。



前議長
原 源次

副議長



三澤 澄子

- ・上伊那広域連合議会議員
- ・伊那中央行政組合議会議員

議長の仕事

議会の本会議では、議事の進行を公平かつ円滑に進めるため、発言の許可や採決の宣言などを行い、秩序を保つ責任を負います。また、議長は議会の代表として、行政や他団体との調整や公式行事への出席など、対外的な活動も行います。また副議長は、議長が不在のときにその職務を代行し、議会運営を補佐します。



新たな議会構成

総務経済常任委員会 (5人)



委員長
百瀬 輝和



副委員長
唐澤 由江



委員
原 源次



委員
加藤 泰久



委員
笹沼 美保

所管：総務課、地域づくり推進課、危機管理課、産業課、財務課、会計室、建設水道課、観光森林課

福祉教育常任委員会 (5人)



委員長
西森 一博



副委員長
都志 今朝一



委員
三澤 澄子



委員
山崎 文直



委員
太田 篤己

所管：住民環境課、健康医療課、福祉課、こども課、教育委員会

議会運営委員会 (4人)

委員長 原 源次
副委員長 太田 篤己
委員 西森 一博
委員 百瀬 輝和

委員長会 (4人)

座長 副議長
代理 議会運営委員長
委員 総務経済常任委員長
委員 福祉教育常任委員長

広報委員会 (7人)

委員長 三澤 澄子
副委員長 西森 一博
委員 原 源次
委員 山崎 文直
委員 百瀬 輝和
委員 太田 篤己
委員 唐澤 由江

議会選出監査委員 (1人) 都志 今朝一

議会運営委員会の役割

議会の運営を円滑に行うために設置される常設の委員会です。議会に関するルールや、議会の日程調整、会議規則や委員会条例の審査などを行います。



常任委員会の役割

議案や政策を審査・調査するために常設的に設置される委員会のことです。議員は、常任委員会に所属することが一般的で、本会議に提出された議案や請願陳情について、審査を行います。



グリーン・セーフティ・オアシス 大芝高原プロジェクト始まる!!

	件名(議案名はわかりやすく簡略表記しています)	賛成	反対	議決結果
条例	村税条例の一部を改正する条例 ▶ 地方税法及び地方税法等の一部の改正	8	0	可決
	消防委員会条例の一部を改正する条例 ▶ 議会からの推薦人数を3人から2人に減ずることに伴う改正	8	0	可決
補正予算	一般会計補正予算(第2号)	8	0	可決
	一般会計補正予算(第3号)	8	0	可決
	介護保険事業特別会計補正予算(第1号)	8	0	可決
	水道事業会計補正予算(第2号)	8	0	可決
	下水道事業会計補正予算(第2号)	8	0	可決
その他	財産の取得について(自動ラップ式トイレ式 54台) ▶ 契約の相手方 晴海産業株式会社 16,394,400円	8	0	可決
	財産の取得について(ポータブル電源セット 27台) ▶ 契約の相手方 株式会社BISO 5,464,800円	8	0	可決
	財産の取得について(小中学校学習用端末 1,742台) ▶ 契約の相手方 キッセイコムテック株式会社 84,696,040円	8	0	可決
	副村長の選任につき同意を求めることについて	8	0	同意
決議	「副村長の選任につき同意を求めることについて」に対する附帯決議*	8	0	可決
請願・陳情	「さらなる少人数学級推進と教員増のための教育予算確保」・「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める請願書 ▶ 福祉教育常任委員会は採択 ● 請願に反対：百瀬 1、については反対するものではない。2、義務教育費国庫負担制度の堅持はされている。2分の1に戻せ、拡充については反対する。	7	1 (百瀬)	採択 
	2024年人事院勧告の寒冷地手当見直しに関わる請願 ▶ 総務経済常任委員会は趣旨採択	7	趣旨採択に 1 (山崎)	趣旨採択
	消費税率5%以下への引き下げを求める陳情書 ▶ 総務経済常任委員会は不採択 ● 陳情に賛成：三澤 消費税を一率5%に下げれば、平均家庭で年間12万円の減税になりくらし応援の効果は大きい。負担能力に応じた課税で財源はある。	2 (三澤) (山崎)	6	不採択
	「カリキュラム・オーバーロード」の早期改善のため学習指導要領の内容の精選等を求める陳情書 ▶ 福祉教育常任委員会は採択 ● 陳情に賛成：百瀬 学びの質を確保するためにも、量の見直しは避けて通れない課題である。教育の質を落とさずに進める事を望む。	8	0	採択 

注) 6月定例会は1名欠席で全会一致は8名。

「副村長の選任につき同意を求めることについて」に対する附帯決議*

1. 地方自治法を熟知し、副村長としての任を果たすこと。
2. 村職員が適正に行政事務を執行しているか常に監督し、適切なアドバイスを行うなど、働きやすい環境を維持できるよう尽力すること。
3. 役割である「村長の補佐」の意味を十分に理解し、助言を行うこと。



定例会最終日の動画を
こちらからご覧いただけます

〈4〉

第3回臨時会において、村から肉付け予算として当初予算から5億5,133万円増の補正予算が出され可決。

6月2日から6月13日までの日程で開かれた6月定例会では、財産の取得を含む11議案すべて可決、同意。議会提出の副村長の選任に対する附帯決議*が可決されました。ほか請願1件、陳情2件が採択されました。



令和7年第2回臨時会(4月21日)

件名(議案名はわかりやすく簡略表記しています)	賛成	反対	議決結果
専決処分事項の承認を求めることについて 軽自動車税と固定資産税の条例の一部改正	9	0	可決
専決処分事項の承認を求めることについて 南箕輪村国民健康保険税条例の一部改正	9	0	可決
工事請負契約の締結について(南部小学校照明LED化工事に係る請負契約) ▶ 契約の相手方 有限会社 唐木電設 53,900,000円	9	0	可決

令和7年第3回臨時会(5月14～15日)

村提出の一般会計補正予算(第1号)案では、消防団活動服更新に70人分を計上していたが、「実働する団員の安全を最優先とすべき」として、190人分を計上する修正動議を議員が発議し、修正案を賛成多数で可決。修正した部分を除く原案を可決しました。

件名(議案名はわかりやすく簡略表記しています)	賛成	反対	議決結果
一般会計補正予算(第1号)に対する修正動議(提出者：百瀬、三澤、西森) ● 修正案に反対：太田 最近の入団者の活動服は支給されたばかりで新しく、今後3年間で団員の入退団もあることから、今期一括購入は予算の有効活用の観点で問題があり反対する。 ● 修正案に賛成：唐澤 消防団はなり手不足である。士気を高めるために、全員に支給すべきである。	7	1 (太田)	可決
修正議決した部分を除く一般会計補正予算(第1号)	8	0	可決
水道事業会計補正予算(第1号)	8	0	可決
下水道事業会計補正予算(第1号)	8	0	可決

注) 第3回臨時会は1名欠席で全会一致は8名。

肉付け予算 主な事業内容

合葬式墓地 の整備



4,970万円

村民体育館の 大規模改修



1億2,700万円

グリーン・セーフティ・オアシス大芝高原プロジェクト事業

大芝高原遊具の 改修・新設



1,200万円

大芝高原の ユニバーサルフィールド化



1,420万円



予算の詳細は
村報7月号を
ご覧ください。

議会の
ことば



「附帯決議」って？(P4～5の※注釈)

附帯決議とは、議会が法案や予算案などを可決・承認する際に、その議案に付け加える形で示される意見や要望のことです。議案の内容そのものを修正するのではなく、その運用や今後の取り組みに対する議会の意思を表明する目的で行われます。

〈5〉

令和7年度主要事業ヒアリング

5/20 ◆ 総務経済常任委員会

《総務課》

R 8 年度予定している庁舎と保健センターの長寿寿命化対策調査設計、交通安全の環境整備、国勢調査などを行う。

《危機管理課》

各種防災関連計画の見直し、村総合防災訓練、消防団活動服の更新などを行う。

《地域づくり推進課》

持続可能な自治会検討、空き家対策、長野県地域発元気づくり支援金事業「みなみみのわ森の音楽祭」「ランバイク体験デコボコ」、地域活動支援事業補助金の交付などを行う。

《観光森林課》

大芝高原森林づくり実施計画に沿った整備、グリーン・セーフティ・オアシス大芝高原プロジェクト、大芝高原まつり、観光協会を中心とした観光の充実などを行う。

《財務課》

村の財産管理、ふるさと納税業務などを行う。

《産業課》

地産地消推進や農業者に対する支援などの農業振興、企業振興・企業誘致の取り組み強化などを行う。

《建設水道課》

地区要望による地区計画事業、公園整備(大泉新公園整備・中込児童遊園地東屋設置・田畑児童公園トイレ改修など)、上下水道施設の維持管理などを行う。



5/22 ◆ 福祉教育常任委員会

《住民環境課》

断熱性能向上リフォームの補助、地球温暖化対策実行計画の策定、合葬式墓地の用地取得や設計を行う。

《福祉課》

グループホーム建設費用補助事業や単身入居障がい者への家賃補助などの実施。げんきあっぷクラブや介護予防事業、地域における認知症施策の推進、個別避難計画作成を進める。

《健康医療課》

こころの相談、中学生向けにSOSの出し方教育を実施。高校生までの医療無償化や予防接種など引き続き実施する。

《こども課》

保育園の給湯設備や南原保育園の長寿寿命化改修工事の整備を実施。子育て相談支援やママのための湯ったりタイムin大芝の湯にも力を入れて行く。

《教育委員会》

南部小や中学校西校舎のトイレ改修、こども館公園に遊具を設置などハード面の整備。学習者用タブレットの更新や学校関係職員の配置など教育環境の充実も進めていく。



満蒙開拓平和記念館視察 福祉教育常任委員会 4/16

今年は戦後80年になります。先の戦争から遠く離れたつつある中で、かつての戦争の記憶も年々風化されつつあります。しかし平和を守っていくための積み重ねの大切さはいつの時代でも変わりません。戦争とも密接な関連をもって進められた満蒙開拓の史実を学ぶことは、今の時代であるからこそ大切なことです。満蒙開拓団が当時の時代背景の中で満州に送りこまれた主な理由は、日本からの人減らしと満州における人間の盾であったと言われてしています。全国から27万人の開拓団員が渡り、敗戦に伴う混乱と逃避行の中、病気や集団自決などで8万人が犠牲となりました。長野県は全国一の3万8千人を送り、上伊那は2,615人送出、帰国者1,418人(54.2%)と記録されています。

三沢事務局長から映像での説明を受けた後、館内の展示をていねいに研修しました。本村は記念館の「自治体パートナー」となり、中学生の平和学習に取り入れるなど、満蒙開拓を語り継ぐ学びを進めています。みなさんもこの夏、家族で訪れてはいかがでしょうか。



中学生議会事前学習会

5/23

今年度も秋に予定されている「中学生議会2025！」に向けて、南箕輪中学校3年生の事前学習会を開催した。議会のしくみや、「こども基本法」によって示された「こどもの意見を表明する機会が確保される。また、その意見が尊重される」という『こどもの意見表明権』について説明を行い、中学生議会に向けての意識づけをすることができた。

放課後児童クラブにおける長期休業中の食事提供等
調査特別委員会報告の概要

本村の放課後児童クラブにおいて、令和6年度夏休み中の児童への弁当提供の事業が予算計上されないまま、チケット販売による集金を村職員が行い、委託業者への支払いを行っていた。村の事業を予算化せずに行ったことを疑問に思い、そのことについて理事者や管理職の職員に相談したが、明確な回答がなく改善されなく、議会に内部告発された。議会では提出された内部告發文書の内容に対する事実確認と、放課後児童クラブにおける長期休業中の食事提供が行政機関の義務として適切に行われたかを調査した。

詳しい報告書はQRコードからご覧いただけます。



村に対し要望書を提出 福祉教育常任委員会 5/12

昨年、議会要望で行った「保育園・子育て支援に関するアンケート」の結果を受けて、さらなる支援推進のため要望書を提出した。



「保育園・子育て支援に関するアンケート」結果を受けての要望書

昨年、福祉教育常任委員会から提出した「南箕輪村の保育を守るための要望書」を受けてアンケート調査を行い、率直な保護者の想いを知ることができたことは、大変意義があり評価できる取り組みであった。今後の南箕輪村の子育て支援施策推進のため、以下の項目を要望する。

記

1. 「保育園・子育て支援に関するアンケート」結果を庁内サイボウズで共有するだけでなく、各課でできる子育て支援を検討する機会を設けられたい。
2. 子育ての悩みに関する講演や、保護者が悩みを話して共有する機会を設けられたい。
3. 子育て支援センターの開館日の検討を含めて、機能強化と充実を図られたい。
4. 同様の保護者アンケートを3年ごとに実施し、リアルタイムで子育て支援に役立てられたい。

以上

村からの回答

記

1. 「保育園・子育て支援に関するアンケート」結果を、庁内サイボウズで共有するだけでなく、各課でできる子育て支援を検討する機会を設けられたい。
(回答) 6月の庁議において、アンケートについて改めて報告しました。
2. 子育ての悩みに関する講演や、保護者が悩みを話して共有する機会を設けられたい。
こども相談室、教育相談室の周知を繰り返し行うとともに、多くの子育て世代が気軽に集い悩み事を話せたり、子育ての先輩から話を聞けるような場などを企画していきます。
3. 子育て支援センターの開館日の検討を含めて、機能強化と充実を図られたい。
すくすくはうす、こども館について、他市町村を参考に検討します。
4. 同様の保護者アンケートを3年ごとに実施し、リアルタイムで子育て支援に役立てられたい。
引き続き、保護者アンケートを行っていきます。

南箕輪村議会へ行ってみよう！

「議会ってどんなことをしているの?」「傍聴って難しそう…」
そんなイメージを持っている方も、ぜひ一度、南箕輪村議会を見に来てみませんか?
南箕輪村の議会は、役場3階の議場で開かれています。
村の未来や日々の暮らしに関わる大切な話し合いが、ここで行われています。

議場の場所

- 南箕輪村役場3階。
- 役場正面入口から入り、エレベーターをご利用いただけます。
- 車いすの方も安心してお越しいただけます。



傍聴席入口

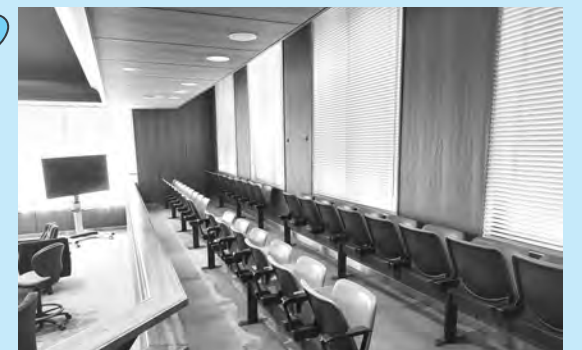
議会の傍聴について

- どなたでも傍聴できます。
(当日、氏名と住所を記入)
- 議会中は静かに傍聴してください。



次回の議会日程

次回の議会は9月1日から開催予定です。
※決定日時はホームページをご確認ください。



傍聴席

- お問い合わせ先 議会事務局(☎72-2361)まで

告知 中学生議会2025 秋ごろ開催予定！

南箕輪村の中学3年生たちが、議会ってどんなところかを事前に学びながら、議場で自分たちの意見を発表する「中学生議会2025」を開催します！

村のことを真剣に考える中学生たちが、未来への思いやアイデアを、自分の言葉で議会に届けます。



中学生議会 2024 より



三澤 澄子

問 米生産と安定供給に向けた施策は

答 農家の作付け計画を尊重し、調整はしない(村長)

問 国の減反政策と流通を市場まかせにしてきた結果、農家数は3分の1に減少し、米の供給が不安定になった。米どころの上伊那でも、販売量が制限され価格も高騰している。R7年度の米生産と安定供給の政策は。

村長 村は農地面積の過半数を水田が占め、水稻の作付けは主要な農業活動である。需要と供給のバランスを保ち、米価の下落を防ぐ観点から再生協議会で調整してきたが、R7年度は各農家の作付け計画を尊重し、調整しない。特別栽培米「風の村米だより」は東洋ライスで安定供給できる。「米の精」購入、散布に対する助成も続け、安定供給できるようJAとも協議していく。

問 農家収入を維持する価格補償、所得補償が必要ではないか。村の米生産を高める施策は。

村長 R7年度は物価高騰臨時交付金を使い、担い手のみならず兼業農家等にも使える助成金を支給する。農業機械の補助も拡大を検討する。水田活用直接交付金は国の動向を見ていく。

問 食育推進計画と地産地消促進計画を進め、安心安全の学校給食を。

教育長 第4次計画を策定し、村産村消を進める。農家、畜産経営者、栄養士をつなぐコーディネーターを産業課職員として配置。整備の必要なものは予算化して進める。

村長2期目の政治姿勢について

問 村長選に臨み特定政党の推薦を受けたか。

6月のお米 精米E 品名予定	
1家族5kgまで 令和6年度米	
風の村の米だより(再生産)	
6月1日~3日 1日24組様	
1kg 740円 5kg 3,700円	
コシヒカリ(上伊那産)	
6月4日~19日 1日15組様	
1kg 730円 5kg 3,650円	
風さやか(上伊那産)	
6月20日~30日 1日15組様	
1kg 670円 5kg 3,350円	
原料不足によりご迷惑をおかけします。	

出陣式には政権与党議員にのみ声かけがあった。分断と選別のスタートでは。

村長 無所属で活動してきた。特定の政党からの推薦を受けてはいない。指摘された点は持ち帰り、協議の上必要な改善を行う。

問 村長政治姿勢に「人と人、人と自然とのつながりを大切に、いつまでも幸せに暮せる村」とある。福祉の心で政策を進めてほしい。働きやすい職場作りが村長の仕事。村長公約の障がい者向けグループホーム誘致の状況は。

村長 これまで3社と話し合った。箕輪町にグループホームを開設予定の事業所は、重度障がい者も含め20名定員で、看護師を配置、機械浴等あり、余裕があれば村からの受入れも可能。他の2社は村内での開設は難しい。

地域温暖化対策実行計画の推進を

問 住宅断熱と耐震化を合わせた省エネ、防災の取り組みを。

村長 村報4月号で特集したが具体的工事や補助金活用など問い合わせが多く、各課で連携して有利な条件の案内など、ていねいに対応する。

問 再生エネルギー導入推進に太陽光発電と蓄電設備の補助金がある。近隣自治体に合わせた取り組みを。伊那市、箕輪町は140万円余の補助金だが村は4万円、県は20万円。

村長 R8年度から国・県の補助を取り入れた近隣と同じ補助制度にする。

問 小水力発電の導入計画は。

村長 県企業局主体で大泉砂防ダムに発電所を計画。基本設計、詳細設計へと進んでいる。早期着工を県に働きかけていく。



問 常々の交通安全教育が大事

答 自分の命は自分で守ると指導(教育長)

問 通学路にグリーンベルトが設置されてから数年以上が経過している。本来はドライバーが気を付けるための目視表示だが、通学時間帯の児童・生徒の安全のためには重要な意味を持つ。高学年ほど道いっぱいに広がって歩く姿も見受けられる。常々の交通安全教育が必要ではないか。

教育長 本来は歩道が整備されていない通学路の通行帯を明確にすることで、歩行者との接触事故を防ぐことが目的。グリーンベルトを歩いている安全というものではない。通学路安全推進協議会でも延長や薄いところの塗りなおし等を進めている。地域の安全を進める意味もある。小学校ではグリーンベルトは大事としながらも、「自分の命は自分で守る」ということについて交通事故の例を基にしたディスカッションの中で学ぶ安全教育を目指している。中学校では交通安全指導職員による下校時の街頭指導などを行っている。小学生には毎年4月に伊那警察署にお願いして登下校時の留意点や自転車の交通安全教室を行っている。継続することが大事。学校だけでなく家庭や見守り隊でも声掛けを進めている。



朝の通学風景

防災対策事業について

問 東日本大震災から14年が経過。防災意識が薄れがちになってはいないか。防災意識を保つための、R7年度以降の防災事業は。

村長 自然災害への備えとして、地方自治体の役割は大きい。4月から国が定めた市町村備蓄食料・資機材の公表制度を踏まえ7千食分と定め、3年間で備える。R7年度は2千食分を購入する。また地方創生交付金を活用して災害用自動ラップ式トイレを各地区の避難所に2セットずつ、小規模蓄電池も設置する。防災訓練や地域イベントで使用し、災害時の混乱の緩和や避難生活の負担軽減につなげたい。ソフト面では地震強化対策アクションプランの作成を進める。災害対策本部が迅速かつ正確に情報を把握できるよう、初動対応や避難所運営の体制を充実させたい。避難者などを受け入れるために不可欠な飲料水・食料・簡易トイレ・衛生用品・毛布・救急セットなどを計画的に備蓄し救援物資が到着するまでの間、円滑な避難生活を支える体制の整備を進める。合わせて避難所運営マニュアルの作成を各地区と共有し、地域の特性に応じた防災活動や住民主体の地区防災計画など村独自の取り組みを進める。自助の観点から、家庭での防災対策も重要だ。

問 各地区の自主防災会の活動を紹介して、お互いの防災意識を高めては。

村長 全地区に自主防災会はあるが課題もある。運営の人材不足、役員の高齢化、防災意識の低下、訓練への住民参加の減少、予算制約などがある。今後は日赤奉仕団・防災士・PTAなどと連携して、避難所運営セミナーなども進めたい。若い世代の参加を促すためにも、防災減災リーダー・サポーター研修を企画したい。



山崎 文直



百瀬 輝和

問 運営協議会で出された意見は

答 大きく分けて2つある(教育長)

問 休日地域クラブの地域展開が4月からスタートして第1回の運営協議会が開催された。その会議で出された意見は。

教育長 大きく分けて2つの意見が出された。1つめは、教職員の兼職兼業についての時間外勤務時間は月45時間以内が望ましいこと。平日部活動の指導を1日1時間45分で月20日行うと約34時間となり、休日地域クラブの指導時間は45時間から35時間を引いた時間になる。兼職の教員の異動で指導者の確保が困難になるため、教育委員会、わくわくクラブで対応ができないかということ。

2つめは、休日地域クラブの指導者がわくわくクラブに加入するための減免措置の制度や加入金の使われ方などの意見があった。わくわくクラブの理事長も参加していたため、説明をしたが、教育委員会としても理解を求めるためのていねいな説明が必要だと感じた。

問 「部活動のガイドライン」を守らないといけないか。

教育長 部活動は学校の教育の一環である。地域クラブは社会教育の範囲になる。子どもたちの環境を整えていくことが大切である。ガイドラインはその方向でお願いするものである。

問 地域クラブに子どもたちの求めるものは。

教育長 時間的な制限がある部活動、クラブ活動になっている。子どもたちはレベルアップしたい願いがあり、地域の指導者に一貫した指導を受けられると期待の声がある。保護者も前向きに捉えている。今後、平日、休日も含めて活動できるクラブは、ジュニアユースクラブに展開していきたい。

問 前回(3月定例会)の質問の続きになるが、今回の構想が2年間検討してきた構想とは違う

がどう考えるか。

村長 予算に関わる事項に意見をのべることは立场上必要である。今回の案件は教育委員会の所管で、意見を踏まえた上で検討をして決定した内容である。

問 わくわくクラブ前理事長に内容を正式に確認をしなかった理由は。

村長 前理事長とは率直に話ができる関係であると考えていた。非公式な場でも話ができると思っていた。

問 地域クラブの会計係に不正が起きると決めつけるのか。

村長 近年上伊那地域で不正が起きている。公金を補助する上で今後、任意団体であるクラブの体制やしくみの検討をお願いしたい。

問 小学生、中学生世代の健全育成をどう進めるのか。今回いい機会ではなかったか。

村長 議員と見解に違いがある。広範な検討の時間的余裕がなかった。予算の話があったのは去年の秋である。小学校の補助についても検討をするように指示をした。

教育長 小学校、中学校クラブは2階建て構想の自主運営で進めていく。



地域展開になる部活動



問 消防団の部の統廃合や定数の見直しは

答 防災力低下につながるため慎重に検討(村長)



西森 一博

問 消防団の部の統廃合や定数の見直しができないか。

村長 南箕輪村消防団の定数は230人で、R7年4月現在の実員は179人(うち基本団員は132人、機能別団員が47人)である。部の統廃合や定数見直しは、本格的な検討が必要であるが、地域や村全体の防災力低下につながるため、慎重な対応が求められる。地域消防力の補完策も含めた検討が必要になる。

問 地域限定の消防団や入団体験など消防団の活動に住民が参加しやすい組織にすることが大切だと思うが、村長の考えは。

村長 共働きや子育て世代にとって参加のハードルが高く、地域コミュニティの希薄化により関係づくりが難しくなっている。ライフスタイルや就業環境に配慮した柔軟な活動形態の導入や、活動内容や魅力を伝える広報の強化も重要である。住民に愛され頼られる消防団を目指し、提案されたアイデアも活かし進めたい。



訓練する消防団

問 個人宅に防犯カメラを設置する際、費用の一部を助成しては。

村長 本村の刑法犯認知件数はR6年より26件増加している。防犯カメラは犯罪防止や早期解決に有効な手段である。予算を考慮して個人や地域を対象とした補助制度を検討したい。

子どもの居場所づくりについて

問 公民館を子どもの居場所として活用するうえで、どのような課題があると考えているか。

教育長 地域活動などを通じて子どもたちが地域と関わりを持つことを望んでいる。公民館を居場所にするには、ボランティアやスタッフの確保、地域住民の理解などの課題がある。

問 第三の居場所としてスケートボードパークの必要性は高いが、再検討の状況は。

村長 大芝高原施設整備計画において、R7年度に再検討することになっている。居場所として整備したい考えはあるが、予算規模が大きいことが課題である。プール跡地の利用も含め計画の方向を示したい。

問 オンライン(マインクラフト)を活用した子どもの居場所を村でつくってみては。

教育長 こども家庭庁の指針でも、オンラインが新たな居場所となる可能性を示しているが、現段階では村で整備することは難しい。

消費税の減税について

問 消費税10%のうち2.2%は地方消費税だが、仮に消費税が5%に引き下げられた場合、どの程度の減収が見込まれるか。

村長 R7年度の地方消費税交付金は、4億1,000万円を見込んでいる。仮に5%へ引き下げられた場合、交付金は約1億8,600万円に減少し、約2億2,500万円(55%)の減収となる。

問 地方消費税が減収した場合、村の事業に与える影響と対策は。

村長 社会保障財源を賄うことは困難になる。事業の見直しや縮小、延期などを検討せざるを得なくなる。ただし、住民生活への影響を最小限に抑えられるよう対応したい。



唐澤由江

問 合葬式墓地の内容については**答** モニュメントタイプで計画する(村長)

問 合葬式墓地の内容は、どういうものか。
村長 墓地の構造は維持管理やコスト面からモニュメントタイプとする。個別埋葬200体、共同埋葬400体。

問 他の墓地公園の使用者も購入できるか。
村長 個人墓地所有者でも購入可能。ただし、村営墓地利用者は返却が条件となる。

問 料金設定は。
村長 使用料は村に住民登録していれば15年間で15万円。永代使用料は住民登録があれば5万円、いずれも本籍のみは若干上がる。

大泉新公園・村内公園の整備について

問 大泉新公園の整備計画は。
村長 造成、遊具、休憩スペース、トイレ、駐車スペースなどを3,000万円かけて整備する。

問 その他公園の整備計画は。
村長 中込児童公園に東屋、田畑児童公園のトイレを洋式化、田畑、南殿、北殿駅前広場にフェンスを設置する。

大芝高原の森林づくり実施計画について

問 実施計画概要版の告知はできているか。
村長 お出かけ村長室で説明したい。

乳幼児健診時の保健指導について

問 保健師や栄養士の指導通りにできないと感じる保護者の悩みにどう対応するか。
村長 保健師、管理栄養士が1対1で相談を受けるのではなく、1対4くらいで相談をうける。おいでよ育児相談、お出かけ赤ちゃんルームなど。「ポピュレーションアプローチ」の手法を心がけている。

森林環境税について

問 個人住民税に1人1,000円を上乗せされた森林環境税。村はどのように使うのか。また今後の利用計画は。

村長 森林環境譲与税として村へR7年度は470万円。使途は森林整備や木材利用の推進で南箕輪中学校学習机の天板に利用。今後も南部小、南箕輪小に活用する。



アカマツの天板を取り付ける中学生

問 災害時に活用できる用具の設置の考えは。
村長 林業振興資金にとどまらず地域防災として、間伐、土砂災害の防止が不可欠。最近の激甚化する災害時防止として、チェンソー、無線機、簡易トイレの目隠し、炊き出しのための木製ベンチ、発電機等の整備を計画する。

グリーン・セーフティ・オアシス大芝高原プロジェクト事業について

問 R7年のインフラ整備事業内容は。
村長 老朽化する大芝公園内の屋内運動場や陸上競技場への水道管の耐震化を図る。また北原地区の塩ビ管の布設替え工事で耐震化工事をする。

問 R8年の大芝の湯改修工事に県産材を使用して森林保全や林業振興に役立てては。
村長 大芝の湯は新築でなくリニューアル工事となるが、消防法や建築基準法に準拠して、大芝のアカマツや、県産材など可能な限り利用していく。

**問 観光政策についての基本的考え方は****答** 当地の日常＝来訪者の非日常体験(村長)

問 観光は、これからの地域経済振興策のひとつであるが、観光政策についての基本的考え方は。

村長 観光資源については、大きな施設や有名な史跡、特産品といったものだけではない。地域の人々が昔から大切にしてきたもの、日々の暮らしの中にある風景や文化、農林業などの地域産業、そして、それを実際に体験できる機会こそが、非常に魅力的な観光資源になりうると考えている。当地のあたり前は、来訪者にとって特別な体験となる。そのことにどれだけ気付けるかが、観光を考える上での大きなポイントになると判断しており、観光政策を進めていきたい。

大芝荘を博物館(ミュージアム)に

問 村は「グリーン・セーフティ・オアシス大芝高原プロジェクト」を公表し、上伊那地域を代表する観光拠点の整備を目指すとしている。そこで、活用方法の決まっていない大芝荘を観光施設として、村の文化財等を収蔵する博物館にリニューアルしては。

教育長 現在、「太宗館文庫」の文化財整理作業に大芝荘を活用しているが、村の所有する文化財の整理には、ようやく着手したところで完了までには相当の年数を要する見込みである。県の「文化財保存活用大綱」を参考にして把握整理、保存活用を進めていく必要があると承知している。村には神子柴遺跡や久保上ノ平遺跡など全国的にも有名な遺跡があり、県内外からの見学者もある。このような見学者や観光客など、より多くの人に村の貴重な文化財を見ることが望ましいと考えており、大芝荘を博物館として活用することも、ひとつの可能性として大事に考えたい。



太田篤己



神子柴遺跡パンフレット 村教育委員会作成

人材確保の現状は

問 日本の出生数はR6年68万6千人で、S48年の209万人以降減少が続き、若年層の働き手不足は急激に進んでいる。村職員の人材確保は喫緊の課題で、働きやすい職場づくりは欠かせないが、村の現状は。

村長 働きやすい職場づくりは、人材確保のためにも、職場のパフォーマンス向上にも欠かせないものである。本村は以前から職場の雰囲気明るいという評価を住民から受けており、この評価を確かなものとするためカウンセリングの実施や、ハラスメント防止研修、ストレスチェックなどを実施し職場環境の改善に取り組んでいる。昨年度はストレスチェック大賞2024の公務部門で優秀賞を受賞。女性管理職比率は県内で最も高い役場として評価を受けている。人材確保については、多くの人に採用試験を受けてもらうために、積極的な広報活動を行っている。本村の受験者数は大きく落ち込んではいないが、合格者の辞退は課題。職員のキャリアアップにあたって、従来型の選別より、育成していくという視点も重要であると考えている。

南箕輪村の歩みと議会の歴史を語る

議会日より150号記念特別企画として、藤城村長、唐木前村長、笹沼議長、三澤副議長による座談会を行いました。南箕輪村と村議会の歩みを振り返りながら、議会の変化などを語りあいました。



まっくん誕生

笹沼議長(以下笹沼)：「まっくん」は公募だったんですか？

唐木さん(以下唐木)：最初は大芝高原のキャラクターとして「松ぼっくり」をテーマに業者に作ってもらった。

三澤副議長(以下三澤)：今のまっくんはかわいいけど、最初はあんまりかわいくなくてね。

唐木：トウモロコシぽいって言われてた。

藤城村長(以下藤城)：まっくんの資料を見たら、名前の公募で「マツタロウ」なんてのもありました。

唐木：結果的に「まっくん」っていい名前になって、人気も出てよかったよ。

笹沼：2005年に正式に村のキャラクターになったんですよ。

村民センター・図書館・松寿荘の設置

三澤：1993年にデイサービスセンター松寿荘ができたのは、すごく画期的でしたよね。

唐木：当時、そういう施設が村に無かったからね。福祉の拠点ができたことは大きかったです。図書館と村民センターも、役場が手狭になって、教育委員会も公民館にあったから、一緒にしようってことになってね。図書館は3回増築して

るけど、福祉の補助金を使って増築したんです。

笹沼：えっ、そうだったんですか！

唐木：厚労省に交渉しに行ったときに「福祉と図書館って関係あるの？」って聞かれ「認知症が増える時代、本を読むことは大切だから切り離せない」って言ったら「それはいい考え」と言ってもらえて増築の財源ができました。

藤城：今はそういう補助金、ほとんどないです。

南部小学校の開校

唐木：南部小は松村元村長さんの一大事業で、思い切って建設してよかったと思いますよ。

三澤：議会でも賛否が2つに分かれてて。

唐木：「小さい学校でちゃんと教育できるのか」って声もあった。でも、今思えば村の発展に大きな意味があったと思います。

浄化センターと下水道

三澤：浄化センターの建設は大変でしたね。

藤城：地元の反対はありますからね。

唐木：説得に苦労したよ。交通公園を一緒に造るって条件をつけたりして。

三澤：この時も議会で議論しましたね。

大芝の湯の整備と現在

三澤：大芝の湯も、だいぶ老朽化してきて、これから大規模改修する予定ですな。

唐木：できた当初は儲かっていて。年間1,500~2,000万円くらい村の財政に入ってきてたけど、灯油高騰の影響でそんなに長続きしなかったな。

藤城：今も入湯税で3,600万円くらい入ってきていて、指定管理料で5,500万円に対して2,000万円程度の赤字で運営しています。

唐木：そこに水道料も入ってくるから、実質的に村はそんなに赤字にはならないだよね。

平成の大合併

三澤：当時の合併議論は本当に議会でも割れていましたね。まずは住民投票をしようって議決したりしてね。村の説明資料には「合併しないと議員定数は10人に」とか書いてあってね。

笹沼：それって、議会が言ったんじゃないくて村が提示したんですか？

三澤：そうそう。当時は議会も村の言うとおりであったところがあった。

唐木：交付税が10億から7億に減って村としても厳しくて、当時6市町村で合併協議会作ったけど、村のアンケートで反対が多くて、住民投票で決着つけたんだ。

三澤：投票率が71.29%とすごかった。

唐木：アンケートで面白かったのは、古くからの住民ほど合併賛成が多くて、転入してきた若い人の方が合併反対が多かったんだよね。

2006年豪雨災害と防災体制

唐木：この豪雨災害が、今の災害対応のベースを作ったと思いますよ。この時は長野県で一番早く避難指示を出しましたね。

三澤：消防団が何度も避難誘導してくれて。

唐木：あの時は職員も不慣れだったし、自主防災組織もまだ整ってなかったですね。

たけのこ園・こども館の整備

唐木：たけのこ園は必要だと思って、議会に無理を言って作らせてもらったんですよ。

三澤：こども館をもっと大きく作ってほしかったですけどね。

唐木：それは敷地が狭かったのと、財源の問題があつてね。伊那定住自立圏に入ったことで起債もできて、交付税も保全されてよかった。

最後に

唐木：歴史を知るとはやっぱり大事です。議会は是々非々でやってもらって、チェックだけじゃなく提案や議案の質疑もしっかりやってほしいですね。

笹沼：全員協議会で説明を聞いて終わりじゃなくて、本当は議場でしっかり議論すべきだと思っています。

唐木：一般質問って儀式的なところがあるけど、議案に対する質疑は村や村民のために本当に大事です。

笹沼：議員間討議も進めていく予定で、チェック機能をもっと強化していきたいと思っています。

唐木：議会が元気になると、行政や政治への関心も高まると思います。信念を持って反対してくれていいし。合併のときのような熱量が出てくると、もっと良くなると思う。今はちょっと穏やかすぎると思うね。

笹沼：村長とも話し合いながら、前に進めることは進めていく。情報交換しながら、行政と議会が両輪として動けるように、議会をまとめていくのが私の役割だと思っています。

唐木：ぜひ、しっかりやってください。





広報モニターの声

モニターのみなさんから寄せられた議会だより誌面や議会に対するご意見を参考に、より親しみやすい議会だより、また議会になるよう努力してまいります。

議会だより149号(前号)誌面に対するご意見・ご感想

- 若者議会について私自身が感じている疑問に近い内容が一般質問に出ていたため、興味深く読むことができました。
- 今回の議会だより、注目したのは「若者議会」の誌面です。若い世代3名の質問内容は、大芝高原の森林計画、大芝荘の活用・運営方法や自治会に対しての取り組み、区、組への質問など、現在抱えている村の内容について関心を持っていますと思いました。これからも若い世代の意見交換する企画を継続して欲しいと思います。
- 「若者会議2024」の記事を観てとても良い事だと思いました。なお、差し支えのない範囲で結構ですので議員の村との関わりが判る簡単なプロフィールがあると良いと思います。
- 「きらきら村の仲間たち」より、楽集会会長の苦勞している言葉に、「ただ公民館をオープンしているだけでは人は集まらない」や「回覧のお知らせを観てくれない」は、関心を持って頂くための周知方法などの共通の課題であり難しさを感じました。
- 写真・文字・記事のバランス、配色もよく考えられて工夫されていると思います。
- 今回は若者議会が目をつけた。ここに生まれ育ったわけではない若者が、こんなに村について考えてくれていることに感心しありがたいと思った。
- 若者議会について：「行政や議会に良い印象はなく、それは何も変わらなかった。…他に得たものはひとつもなかった」という若者議員の方の意見、非常に率直で厳しいものだと思受け止めました。この発言は、若者議会の意義や、参加された方が得られるはずの経験について、改

めて深く考えるきっかけとなります。この感想が建設的ではないと感じられるのも理解できます。しかし、裏を返せば、これは現状に対する強い不満や期待外れの表れであり、むしろ議会として真摯に受け止めるべき貴重な意見だと考えます。

- 若者議会で「区、組への未加入」に関する質疑応答は、身近にも脱会を検討している方がいたので興味深く読ませていただきました。村長の言われている日常的な人のつながりは、あまり実感がなく様々考えさせられました。

議会に対するご意見

- 村民の声がより届くように工夫を続けてほしい。
- 今回のように若者の声を聴ける機会を作ってほしい。「村民の声を聴く会」は、なかなか参加しづらく、限られたメンバーになってしまうと思うので。投票率の低下や、政治離れが心配されている中、若い人たちの意見や提案も取り入れることで、多くの若者が政治に関心を持つきっかけになればと思います。
- 広報モニターの声「村に対するご意見」の中で、子ども達の活動スペースがないとの意見があり、子育て世代の転入が多い村と聞いていたので残念な気がしました。公民館は使用していない時間帯に開放してもいいのでは。夏場はクールスポットにしても良いと思います。



↑すべてのモニターの声はこちら



↑議会だより149号

編集後記

議会だよりは今回で150号を数えます。1号からの村政と議会について唐木元村長を迎え特集してみました。唐木さんが議会事務局長の時に議会だよりをスタートされ、私自身は14号からの議会活動になります。村で在り続ける中で、この間の出来事を改めて振り返り、村のことは村民が決める住民自治の取り組みが大事だと思う対談となりました。(三澤澄子)

広報委員会委員長	三澤 澄子
副委員長	西森 一博
委員	原 源次
	山崎 文直
	百瀬 輝和
	太田 篤己
	唐澤 由江